

人の記憶は、実は思い出すたびに少しずつ書き換えられていることが脳科学で分かっています。例えば昔の楽しい出来事も、何度も振り返るうちに最初とは少し違ったストーリーになっていることが多いのです。そう思うと「懐かしさ」というのは脳が作り出す「ちょっとしたフィクション」みたいなものかもしれません。

ここまでの戦いぶり



吹く風も心地よく、遠くの山々の緑が目には鮮やかな季節となりました。お出かけにはもってこいですが、5月は紫外線が急激に強くなる時期ですので、対策はしっかりしましょう。

さて、我らがカープ。

5/15時点で36試合を消化し、19勝16敗1分け、リーグ2位につけているカープ。痛恨の7連敗もあったが、確実に昨シーズンとは違う戦いぶりを見せている。

一番の強みは投手陣の力を含む“守りの強さ”だ。今季は開幕から先発投手が壊した試合がほぼない。床田は7試合すべて、大瀬良と森下は7試合中6試合でクオリティスタート（先発投手が6回以上を投げ、自責点3以内に抑える）を達成している。ここまで3勝を挙げている森の存在も大きい。オープン戦である程度の結果が出て手応えを感じた中でシーズンが開幕し、しっかりと結果につながった。期待通りの働きである。

そして特筆すべきは二遊間の守備だ。今季、ショートのレギュラーを完全に自分のものにする意気込みでシーズンに臨んでいる矢野、ベテランの菊池は失点を防ぐような守備が毎試合のように見られる。この二人の守備は投手を助けている。守備の面では二俣も目立っている。大けがをした不運もあったが、翌日から試合に出て精神的ダメージを吹っ飛ばしている。打席に立つ際の恐怖心もあるはずだが、チャンスモノにするんだという気持ちが強い。

毎年課題は打線だ。いかに点を取ってピッチャーを楽にしてあげられるか。夏場に入ればピッチャーの疲労度は色濃くなってくるため、打線でいかに擁護できるかがポイントだ。そんななか、今季は末包が打点を稼ぎ、ファビアンには安打がよく出ている。4番バッターが決まらなかった昨年とは違い、末包が4番に座ってから3番に入ることが多い小園、ファビアンとの流れが非常に機能している。クリーンナップがある程度固定できているのは明るい材料。気になるのは、末包がシーズンを通じて4番を打てるかどうか。シーズンを通してプレーした経験がないのが不安材料だ。

他にも、田村、中村、二俣、林といった若手に期待している。次世代のレギュラー候補たちが、



「一軍のベンチ入りメンバーに加わるんだ」と意気込み、いい意味でチーム内で競い合っている。秋山、モンテロが戦列に復帰すると、野手の競争はますます激しくなり、若手にとっては正念場だ。先日復帰した坂倉の存在も大きい。仮に末包が調子を落としてもカバーできるし、中軸にも厚みがある。両者が戻ってくれば攻撃のバリエーションも増える。

まずまずの戦いぶりを見せているカープ。6/3から始まる交流戦を前に、昨年になかった長打を期待しつつ、繋ぐ野球を見せてほしい。

頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたをそしてカープを全力応援致します！

裏面もご覧ください。